



TITLE:

形態基礎研究部門(I 研究所の概要)

AUTHOR(S):

岩本, 光雄; 木村, 賛; 毛利, 俊雄; 諏訪, 元

CITATION:

岩本, 光雄 ...[et al]. 形態基礎研究部門(I 研究所の概要). 霊長類研究所年報 1988, 18: 12-13

ISSUE DATE:

1988-09-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/163868>

RIGHT:

4 研究活動

形態基礎研究部門

岩本光雄・木村 賛・毛利俊雄・諏訪 元

研究概要

1) 旧世界ザル、特にマカクに関する形態学的研究

岩本光雄

スラウェシマカクの種分化、進化を解明する形態学的研究を、渡辺毅（相山女学園大学）、浜田穰（日本モンキーセンター）、バンバン・スリョプロト（インドネシア共和国ボゴール農科大学）、他と共に進めた。前年度実施した文部省科学研究費補助金（海外学術調査）による現地調査・研究の取りまとめである。

ニホンザルに関しては、現生ニホンザルの皮膚隆線系の分析と、若干の化石の観察・検討を進めた。今後、これらの形態学的側面から、ニホンザルの時代的变化と地域的変異について考察を加えたいと予定している。

2) 霊長類のロコモーションと運動器の研究

木村 賛

現生霊長類のロコモーションと運動器の比較研究を行っている。これを通してのヒトの進化過程の検討が行われている。この研究の一部は共同利用研究計画研究「運動器からみた霊長類の系統発生」とも関連している。

(I) チンパンジーロコモーションの個体発達

チンパンジーのロコモーション、特に平地二足歩行の個体発達の運動力学的測定を行っている。現在3頭のチンパンジーの縦断的観察が行われている。本年度は特にテレメータによる加速度測定を行い、重心移動についての検討を行った。

(II) 四肢躯幹骨の発達

骨の個体発達について調べるため、まずニホンザルの骨端線の閉鎖についての基準を作成している。200体以上の年齢既知の個体の発達を調べて、性差、亜種差についての知見をえた。この研究は浜田穰（日本モンキーセンター）との共同研究である。

(III) 関節運動の力学的検討

後肢関節の可動域と力学特性を測定し、ロコモ

ーションと関連して検討を行っている。本年度はテナガザル4頭、クモザル1頭の生体において測定を行い、特に膝関節可動域の考察を行った。この研究は共同利用研究員山崎信彦、遠藤博史（慶応大学）、岡田守彦、森本光彦（筑波大学）との共同研究である。

3) 霊長類頭蓋骨の形態学的研究

毛利俊雄

ニホンザルの舌下神経管の分割状態について、「ヒトの非計測形質」研究班会議で発表した。幸島のニホンザルの頭骨を観察し、多くの非計測形質、特に鼻骨周辺の縫合などでは、ほとんど画一的といってもよいほど変異が少ないことを見いだした。東滋、小林秀司、高井正成とともにヤク（ニホン）ザルの骨格を収集した。

正準判別分析を用いて新世界ザルの頭骨計測値の属間比較を行ったところ、新世界ザルの伝統的な二分法とローゼンバーガーによる二分法は正準変量1、2のスキュタグラム上で互いに垂直なふたつの直線で表現されるという興味深い結果をえた。

4) 鮮新世および更新世初期のヒト科化石、特に歯牙の形態学的、系統学的研究

諏訪 元

オモ川流域出土の遊離歯の形態学的研究を行い、これまで知見の少ない二〜三百万年前のヒト科の系統を考察した。

総 説

- 1) 岩本光雄（1987）：サルの分類名（その3：コロブスモンキー、ランゲールなど）。霊長類研究 3(1):76-88.
- 2) 岩本光雄（1987）：サルの分類名（その4：類人猿）。霊長類研究 3(2):119-126.

論 文

- 1) Kimura, T. (1987) : Development of chimpanzee locomotion of level surface. Human Evolution 2(2): 107-119.

報告・その他

- 1) Kawamoto, Y., Hamada, Y., Suryobroto, B., Watanabe, T., Iwamoto, M. and Takenaka, O. (1988) : A case study on the genetic variation within and between

- troops of the black ape, *Macaca nigra*. Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Asian Non-human primates Ⅶ: 15-17.
- 2) Hamada, Y., Suryobroto, B., Takenaka, O., Iwamoto, M., Watanabe, T. and Kawamoto, Y. (1988): Distribution of three species of macaques in the northern peninsula of Sulawesi. Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Asian Non-human Primates Ⅶ: 19-30.
 - 3) Hamada, Y., Watanabe, T., Suryobroto, B. and Iwamoto, M. (1988): Morphological studies of the Sulawesi macaques: morphological specialization in the black ape (*Macaca nigra*) with ecological and sociological consideration. Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Asian Non-human Primates Ⅶ: 31-47.
 - 4) Watanabe, T., Hamada, Y., Suryobroto, B. and Iwamoto, M. (1988): Somatometrical data of the Sulawesi macaques and pigtailed collected in 1984 and 1987. Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Asian Non-human Primates Ⅶ: 49-57.
 - 5) Suryobroto, B., and Iwamoto, M. (1988): Bimanual correlation and asymmetry in palmer dermatoglyphics pattern: an observation on Indonesian macaques. Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Asian Non-human Primates Ⅶ: 57-65.
 - 6) Akazawa, T., Kimura, T., Hirai, Y. and Narasaki, S. (1987): 1984 excavation at Douara cave: methods and techniques. In: Paleolithic Site of Douara Cave and Paleogeography of Palmyra Basin in Syria. Pt. IV. 1984 Excavations. (Eds. Akazawa, T. and Sakaguchi, Y.) University of Tokyo Press, Tokyo, 41-48, P1. 31-34.
 - 7) 木村 賛 (1987): 運動様式からみたヒトとサル
の分化. 人類の起源と系統をめぐる分子進化の研究推進. 昭和61年度文部省科学研究費総合B 61308003 代表者江原昭善 報告書 P. 37-44.
 - 8) Mouri, T. (1988): Intergeneric comparison of ceboid cranial measurements. Kyoto University Overseas Research Report of New World Monkey Ⅶ: 23-31.

学会発表

- 1) 浜田 稔・竹中 修・岩本光雄・渡辺 毅・バンバン・スリョプロト (1987): 北スラウェシ半島に生息する3種マカクの分布状況について. 第8回日本霊長類学会大会, 霊長類研究 3(2):167.
- 2) 岩本光雄・長谷川善和 (1987): 木更津近郊および藤沢市内出土のサル化石について. 第3回日本霊長類学会大会, 霊長類研究 3(2):168.
- 3) 岩本光雄 (1987): 歯数の減少傾向にみられる歯の大進化. 第41回日本人類学会日本民族学会連合大会 (シンポジウム「人類学と歯」講演), 人類誌 96(2):194.
- 4) 酒井英男・木村 賛・赤沢 威 (1987): シリア・ドゥアラ洞窟内旧石器遺跡における古地磁気. 地球電磁気学会 (福岡).
- 5) 木村 賛 (1987): 霊長類四足歩行の比較運動学. 第3回日本霊長類学会大会, 霊長類研究 3(2):162.
- 6) 木村 賛・浜田 稔 (1987): ニホンザルの骨端癒合年齢について. 第41回日本人類学会日本民族学会連合大会, 人類誌 96(2):234.
- 7) 毛利俊雄 (1987): 中・大型新世界ザルの頭蓋計測値の分析. 第3回日本霊長類学会大会, 霊長類研究 3(2):165.
- 8) 毛利俊雄 (1987): 新世界ザルの頭蓋計測値の分析. 第41回日本人類学会日本民族学会連合大会, 人類誌 96(2):233.
- 9) 毛利俊雄 (1987): 頭骨からみた新世界ザルの進化. 中部人類学談話会.